

令和6年度大和まほろば広域定住自立圏
共生ビジョン連携事業の主な取組状況報告書

天理市・山添村・川西町・三宅町・田原本町

【目次】

1 生活機能の強化に関する政策分野

(1) 福祉

- ① 介護認定審査会共同運営事業 ……P1

(2) 教育

- ① 文化・スポーツ交流促進事業 ……P2
- ② 図書団体貸出事業 ……P4
- ③ 図書館(室)蔵書充実事業 ……P5
- ④ スクールカウンセラー巡回相談事業 ……P7
- ⑤ 文化財の保護及び利活用推進事業 ……P8

(3) 産業振興

- ① 企業立地推進事業 ……P10
- ② 広域観光連携事業 ……P12
- ③ 鳥獣被害防止対策事業 ……P14
- ④ 中心市街地にぎわい創出事業 ……P15

(4) 環境

- ① 一般廃棄物広域処理事業 ……P17

(5) 防災

- ① 災害時相互応援体制整備事業 ……P19

(6) その他

- ① 消費生活相談事業 ……P20
- ② 公共施設マネジメント事業 ……P22
- ③ 公共施設相互利用促進事業 ……P23

2 結びつきやネットワークの強化に関する政策分野

(1) 地産地消

- ① 地産地消等推進事業 ……P24

3 圏域マネジメント能力の強化に関する政策分野

(1) 人材育成・交流

- ① 圏域職員等合同研修・人事交流推進事業 ……P26

(2) 外部からの人材確保

- ① 外部人材活用事業 ……P27

1-(1)-①

事業名：介護認定審査会共同運営事業

事業内容
認定事務の効率化、自治体間の公平性を確保するため、関係市村と介護認定審査会を共同で運営し、要介護認定の審査判定業務を行う。

R6の取組み
(天)(山) ・令和5年度より開始した「審査事務の簡素化※」を令和6年度も引き続き実施し、会議時間の削減と職員の事務の効率化を図った。 ※簡素化…簡素化対象要件を全て満たし、長期に渡り状態が安定している審査対象者に限り、認定調査票及び主治医意見書に基づくコンピューター判定結果を、審査判定結果とみなすこと（二次判定手続きの簡略化）。

取組みによる効果
(天)(山) ・事務の簡素化により、認定審査会（二次判定）での審査対象者が減り、会議時間の削減と審査員の負担軽減につながった。

R7以降の予定について
(天)(山) ・認定審査会のオンライン開催について、審査員を対象にアンケートを実施し、今後オンライン開催できるように検討する。【デジタル】 ・調査方法等の標準化を図るために、合同での調査員研修会開催を予定。【連携】 ・川西町・三宅町・田原本町を含めた5市町村の担当者間での情報交換会を検討する。【連携】

指標（KPI）					
介護認定審査会審査判定件数（件）	実績値（R2）	実績値（R3）	実績値（R4）	実績値（R5）	実績値（R6）
	3,234	2,811	3,129	3,855	3,629

1-(2)-①

事業名:文化・スポーツ交流促進事業

事業内容

圏域内の文化・スポーツなど生涯学習の振興を図るため、文化事業やスポーツ大会等の開催情報を圏域全体に発信し、圏域住民の参加を促進する。また、必要に応じて共同開催による合同イベント等についても検討する。

R6の取組み

(天)(山)(川)(三)(田)

・大和まほろば広域定住自立圏の公式Instagramや天理市ホームページの定住自立圏イベント情報にて文化事業やスポーツ大会等の情報を広く発信し、圏域住民の参加を促進した。【連携】【デジタル】

(天)

・市制70周年を記念し、CoFuFunFES.2024をはじめとした多くのイベントを開催し、多数の圏域住民が参加した。【連携】

(山)

・恒例行事の「やまぞえ布目ダムマラソン大会」を開催し、昨年の参加者数を大幅に上回る833名が参加した。【連携】

・「山添村文化協会」と「山添伝統文化子ども教室推進委員会」の合同発表会として「山添文化フェスティバル」を開催し、多世代間の文化交流を促進した。

(川)

・スポーツ競技、縁日屋台、マルシェ、キッチンカーを一度に楽しめる「スポーツ縁日」を年2回開催し、圏域住民の参加も可能とした。【連携】

(三)

・「三宅町マラソン大会」から「みやけマラソン2025」へと名称を変更し、メイン会場を健民グラウンドから交流まちづくりセンターMiiMo前広場に移してマラソン大会を開催した。昨年から参加料を有料化したが、今回は町内在住者は半額とし、10km、3km、ファミリーランの部を実施するなど、幅広く参加できるマラソン大会とした。また、ゲストランナーとして、奈良マラソンで3連覇した山本芳弘さんを迎え、多くのランナーで賑わった。

【連携】

・グラウンドゴルフ、ゲートボールなどの要素を盛り込んだ「みやけチャレンジゴルフ※」を開催した。※三宅町スポーツ推進委員によりアレンジされたオリジナル競技。

(田)

・スケートボードパークにおいて、圏域住民も含め広く参加者を募り、スケートボード教室を開催した。【連携】

取組みによる効果

(天)(山)(川)(三)(田)

・大和まほろば広域定住自立圏の公式Instagramや天理市ホームページの定住自立圏イベント情報にて、圏域内の文化・スポーツイベント情報を発信することで、圏域住民の参加の促進や相互交流につながった。

【連携】【デジタル】

※やまぞえ布目ダムマラソン大会参加者:833名(うち圏域40名<三宅:4、川西:4、田原本:12、天理:20>、三宅陸上クラブより41名)

※みやけマラソン2025参加者:465名(うち圏域191名<三宅:117、川西:29、田原本:19、天理:26>)

R7以降の予定について

(天)(山)(川)(三)(田)

・今後も、参加対象を各市町村の住民だけでなく圏域住民に拡大できる文化・スポーツイベントの開催を検討していく。【連携】

(天)

・市民会館・文化センターで圏域住民が参加できるイベントを実施し、圏域住民の相互交流を深める。【連携】

(山)

・「山添文化フェスティバル」等のイベントについて、圏域内への情報発信等を行い、圏域住民への参加を促進する。【連携】

(川)

・「琴と尺八」「三味線」のコンサートなど「和」の音楽を中心にイベントを展開し、圏域に発信する。【連携】

(田)

・ジョギング大会、バレーボール大会等のイベントを継続して実施する。

・田原本町中央体育館に新たに「運動ルーム」を設置し、圏域住民の健康増進を図る。また、圏域内の住民は田原本町民と同額の利用料とし、圏域住民が利用しやすい環境を整える。【連携】

指標 (KPI)

圏域全体に参加対象を拡大したイベント等数 (件)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	32	32	69	55	75

○事業写真



田原本町中央体育館に新たに設置された
「運動ルーム」



グランドゴルフ・ゲートボールなどの要素を
盛り込んだ「みやけチャレンジゴルフ」

1-(2)-②

事業名:図書団体貸出事業(天理市・山添村)

事業内容

圏域内の図書館から遠距離の地域のこどもたち等に、本に親しむ機会を提供するため、天理市が所有する蔵書を山添村に配本を行い、多くの図書に触れる機会の創出に取り組む。

R6の取組み

(天)(山)

・天理市から山添村の豊原公民館、東山公民館へそれぞれ半期ごとに350冊を配本した。(計700冊)【連携】

(山)

・広報紙、SNSで団体貸出に関する記事を掲載し広報に努めた。【デジタル】

・令和6年度に開園した「山添こども園きらり」に絵本を約100冊配本した。また、土曜日、日曜日に同施設を地域コミュニティの場として地域住民に開放した。【SDGs】

取組みによる効果

(天)(山)

・天理市から山添村の公民館へ配本することで、村民の読書活動が推進され、図書館サービスが充実した。【連携】

(山)

・「山添こども園きらり」を地域コミュニティの場として地域住民に開放することで、多世代の住民が多くの図書に触れる機会を創出できた。

R7以降の予定について

(天)(山)

・令和7年度以降も、村内に3か所ある公民館(豊原、東山、波多野)を半期ごとに巡回する方式で継続して配本を実施する。【連携】

(7月に波多野公民館、11月に豊原公民館へ配本予定。貸出冊数は令和6年度と同じ。)

(山)

・令和7年度も広報紙、SNSを活用して利用者へ周知していく。【連携】【デジタル】

・「山添こども園きらり」の園児への絵本貸出について、村民への周知を行う。

指標(KPI)

天理市立図書館から山添村への図書貸出冊数(冊)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)
	900	700	700	700	700

○事業写真



「山添こども園きらり」の園児への絵本貸出

1-(2)-③

事業名:図書館(室)蔵書充実事業

事業内容

圏域の拠点となる天理市立図書館において、幅広い蔵書の充実を図るとともに、圏域内住民が日々の暮らしや仕事のなかで必要とする知識や情報の提供に努める。

R6の取組み

(天)

- ・電子図書館の利用IDを希望する中学校の全生徒に配布した。【デジタル】
- ・郷土資料をデジタル化し、電子書籍として公開した。【デジタル】
- ・絵本の郵送貸出を実施した。3歳以下のこどもがいる家庭に図書館員が選んだ絵本を郵送し、図書に触れる機会を創出した。
- ・読書バリアフリーの取組みとして、館内の「りんごのたな※」の充実を図った。【SDGs】
※特別なニーズのある利用者を対象としたサービス
- ・市内公民館、学童保育所、幼稚園、保育施設等への団体貸出を実施した。
- ・図書館の公式Instagramの運用を開始した。【デジタル】

(山)

- ・東山公民館が中心となって読み聞かせ会を毎月実施した。毎回5～20名の参加があった。

(川)

- ・幼稚園・小学校への訪問貸出を実施した。
- ・令和5年にスタートした「ブックスタート※」を継続して実施した。
※0歳児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動。
- ・おはなし会(こども向け、大人向け)を2回実施した。
- ・利用者自身で端末を操作し、図書館資料の貸出を行うことができるよう、館内利用者用検索端末機に「セルフ貸出機能」を導入した。児童書を借りるこどもたちの8割がセルフ貸出機能を活用した。【デジタル】

(田)

- ・図書館(田原本青垣生涯学習センター)開館20周年の記念イベントとして、絵本作家「聞かせ屋。けいたろう」氏によるお話会を2回、大人向け読み聞かせ講習会を1回実施した。
- ・小中学校の各図書室の利用促進のため、令和7年2月から学校司書を導入した。

取組みによる効果

- ・圏域の拠点となる天理市立図書館が、電子書籍を含む蔵書を充実させるとともに、団体貸出や読書関連イベントの実施を通じて、圏域内の住民が本に親しみ、必要とする知識を得る環境づくりを進めることができた。【連携】【デジタル】

R7以降の予定について

(天)

- ・電子図書館の電子書籍(小中学生から高校生向け)の購入を目的として、ふるさと納税「ガバメントクラウドファンディング」を行う(目標額100万円)。【デジタル】
- ・市内の小学校図書館の環境改善を進める。
- ・絵本の郵送貸出を継続して実施する。

(田)

- ・小学校4年生から6年生までの児童に電子書籍を配布する。【デジタル】

○指標 (KPI)					
図書新規購入冊数(冊)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	13,471	10,897	11,920	11,679	10,945

○事業写真



りんごのたな（天理市立図書館）



ガバメントクラウドファンディング
（天理市立図書館）

1-(2)-④

事業名: スクールカウンセラー巡回相談事業

事業内容

学校における教育相談体制を充実するため、天理市にスクールカウンセラーを配置し、市立9小学校を対象校として巡回相談を実施するとともに、山添村の小学校等への巡回相談支援を行う。

R6の取組み

(天)(山)

・天理市のスクールカウンセラーが山添村の小学校等への巡回相談支援を実施した。【連携】

(天)

・学校問題の解決支援として「ほっとステーション」が教育総合センター内に開設された。ほっとステーションには心理士が常駐し、保護者や子どもからの相談に対応している。スクールカウンセラーにも「ほっとステーション」の取組みを共有し、連携を図った。

(山)

・月4回、小中学校、分校、教育委員会にて巡回相談を実施した。
・スクールカウンセラーの案内チラシを作成し、小学校への配布・周知を行った。

取組みによる効果

(天)(山)

・児童・生徒や保護者へのカウンセリング、教職員への指導助言、ケース会議での助言など、幅広くスクールカウンセラーを活用し、連携して教育相談体制の充実を図ることができた。【連携】

R7以降の予定について

(天)

・令和7年4月より、スクールカウンセラー担当の職員が教育総合センターに配置され、ほっとステーションとの連携がしやすくなった。今後も山添村やほっとステーションとの更なる連携に努める。【連携】

(山)

・令和9年4月に義務教育学校が開校予定であり、スクールカウンセラーの配置の在り方を検討する。

指標 (KPI)

スクールカウンセラー巡回相談件数(件)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	784	907	648	627	694

事業写真



スクールカウンセラー案内チラシ(山添村)

1-(2)-⑤

事業名:文化財の保護及び利活用推進事業

事業内容

圏域の貴重な資産である文化財を確実に後世に継承するため、適切な保護と保存に努める。また、企画展等の開催や圏域内外への効果的な情報発信に連携して取り組み、文化財の利活用の推進を図る。

R6の取り組み

(天)(川)(三)(田)

・天理市が年1回発行している「天理市文化財だより」に川西町、三宅町、田原本町から話題を提供してもらい、最終ページに圏域内の文化財の記事を掲載した。また、なら歴史芸術文化村での配布や、WEB発信を行った。【連携】【デジタル】

・田原本町が発掘調査を実施した宮古平塚古墳を紹介する企画展「宮古平塚古墳にみる王権」(令和6年4～5月開催)を、唐古・鍵考古学ミュージアムにて開催した。企画展では、天理市・川西町・三宅町それぞれの管内で出土した埴輪を出展した。【連携】

(天)(川)

・なら歴史芸術文化村の考古遺物修復工房にてミニ展示を実施しており、令和6年度は川西町の遺物を展示した。

(天)(三)

・天理市よりシリコン製銅鏡鋳型を借用し、三宅町こども体験教室「夏休み銅鏡づくり教室」を開催した。【連携】

(天)(田)

・唐古・鍵遺跡史跡公園にて開催された「おもしろ歴史フェスティバル」では、天理市と連携し歴史を愉しめるイベントとして講演会等を行った。【連携】

(天)

・なら歴史芸術文化村の展示室において「ワニ氏の源流を探る 和爾地域周辺の古墳時代」の展示会を行った。

(川)

・川西文化会館において地域の文化財のパネル展示を実施した。

取り組みによる効果

(天)(山)(川)(三)(田)

・地域文化財の展示会や、圏域で連携した企画展を開催したことで、多くの来場者に圏域内の文化財の価値や魅力を伝える機会を創出できた。【連携】

・企画展やイベントについて、各市町村の公式SNSや大和まほろば広域定住自立圏の公式Instagram等にて圏域内外に広く周知することで、交流人口の拡大につながった。【デジタル】【連携】

R7以降の予定について

(天)(山)(川)(三)(田)

・圏域内の文化財情報について、各市町村の公式SNSや大和まほろば広域定住自立圏の公式Instagram等での発信を積極的に行い、文化財の価値や魅力を周知することで、地域活性化や交流人口の増加につながるよう努める。【連携】【デジタル】

・令和7年度より山添村も連携事業に加わるため、今後も連携して文化財の情報を相互に周知し適切な保護や保存に努める。【連携】

・天理市が年1回発行している「天理市文化財だより」に山添村も追加し、圏域内の文化財についての記事を掲載する。【連携】

・唐古・鍵考古学ミュージアムでの企画展のテーマに合わせ、圏域内の各市町村の出土資料から展示資料を選定する。【連携】

(天)(三)

・令和7年度も天理市から銅鏡鑄型を借用し、銅鏡づくり体験教室を実施する。【連携】

(天)(田)

・なら歴史芸術文化村での年1回の企画展を、天理市と田原本町で共催予定。【連携】

(川)

・地域の文化財のパネル展示や講座を開催する予定。

(山)

・なら歴史芸術文化村の考古遺物修復工房でのミニ展示を山添村が担当し実施する。

指標 (KPI)

文化財展・企画展等の来館者数(人)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	4,785	4,464	16,820	13,303	19,829

事業写真



なら歴史芸術文化村での川西町文化村展示



なら歴史芸術文化村での展示会「ワニ氏の源流を探る
和爾地域周辺の古墳時代」



唐古・鍵考古学ミュージアムでの企画展「宮古平塚古
墳にみる王権」

1-(3)-①

事業名:企業立地推進事業

事業内容

圏域内における企業立地に関する優遇、奨励措置等の充実を図ると共に、一体的・効果的なPRの方策を協議・検討する。また、圏域全体の魅力、特性を活かした企業誘致に向けて、各市町で立地環境の整備やその他の取組を進める。

R6の取組み

(天)(川)(三)(田)

・同系列の商業施設等を誘致しないように各市町村の企業の情報共有を行った。【連携】

(天)

・奨励金の案内等を行うことで、倉庫業(NKG倉庫株式会社)・小売業(クスリのアオキ)など6社の事業所の誘致に成功した。

(川)

・令和5年度に土地引渡し完了した唐院工業団地の拡幅用地に、「(株)昭和特殊印刷社」の本社工場が建設され、創業を開始した。

・大和中央道沿道での商業施設の誘致に向け、事業手法を決定し、基本計画の策定に着手した。

(三)

・奈良県主催の企業立地セミナーにて、パンフレット等を用いてPRを行った。

・用地に関する問い合わせがあった企業に情報提供を行った。

(田)

・国の農用地除外の規制強化により、土地利用型の企業誘致が困難となる中、町の特性に合った革新的な技術・アイデアを持つスタートアップ企業や起業家を誘致するため、「新産業創出による地域活性化に関する連携協定」を締結した。(田原本町・奈良中央信用金庫・ReGACY Innovation Group(株)・田原本町商工会)【連携】

取組みによる効果

(天)(川)(三)(田)

・企業への積極的なPRや効果的な情報提供を行うことで、企業の誘致が進んだ。

R7以降の予定について

(天)(川)(三)(田)

・各市町の取組みや企業誘致状況の情報共有を継続する。【連携】

(天)

・企業立地に関する優遇制度等の効果的な啓発を行うとともに、引き続き、開発指導部局と連携しながら立地の可能性が高い候補エリアの選定を進める。

・令和7年度に5社(予定)の企業誘致を進める。

(川)

・令和5年度に土地引渡し完了した唐院工業団地の拡幅用地に、「(株)林一二」工場が令和7年度中に完成、令和8年度中に創業予定。

・大和中央道沿道の基本計画の策定を進める他、土地区画整理事業の導入に向けた事務や企業ヒアリングを実施する。

(三)

・京奈和自動車道三宅IC付近を核とした商工業誘致に注力する。

(田)

・「新産業創出による地域活性化に関する連携協定」に基づき、スタートアップ企業や起業家の誘致を進める。【連携】

指標 (KPI)					
企業立地件数 (500 m ² 以上の新設・移設)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	7	4	5	2	7

事業写真



天理市内に立地したNKG倉庫（株）



天理市内に立地したクスリのアオキ



川西町内に立地した（株）昭和特殊印刷社

1-(3)-②

事業名: 広域観光連携事業

事業内容

歴史・文化、観光といった繋がりのある圏域において、連携した取組によりエリアとしての発信力を高め、魅力を増進させ、集客効果を高めるために、県や関係市町村と結びついた広域観光を推進し、ストーリー性、テーマ性のある周遊観光ルートや新たな観光資源の創出などを進める。

R6の取組み

(天)(川)(三)(田)

・東京都内に所在する奈良県ブランドショップ「奈良まほろば館」に、各市町の観光パンフレットを配架した。

【連携】

・大和まほろば広域定住自立圏の公式Instagramにて、各市町のイベント情報等を紹介した。【連携】【デジタル】

(川)(三)(田)

・民間事業者と連携し、共同でシェアサイクルの設置を進めた。【連携】

(三)(田)

・三宅町と田原本町その他、橿原市、高取町、明日香村と共同で飛鳥エリアを周知するためデザイントラックを作成し、走る広告塔として近畿圏～首都圏等でPR活動を行った。【連携】

(天)

・個人・団体からのボランティアガイドの依頼受付の他、行楽シーズンの一定期間、市内3か所で予約のいない定点案内を実施した。

・山の辺の道エリア(天理市・桜井市)において、地図アプリを活用したイベントとして「山の辺の道 クリーンキャンペーン デジタルスタンプラリー」を実施した。【デジタル】【SDGs】

・産官学協働による本市の英語版キャッチコピー「Time Travel City」を通じた市の魅力の発掘と発信を実施した。(Instagram「めぐみめぐるてんり」での発信、市内小中学生との協働)また、多世代交流イベントやアーティストとの交流イベントを実施した。【デジタル】

・天理駅前広場コフフンにおける産官学連携事業として、「天理大学・モンベル共同体」が地域内周遊観光の促進に向けた取組みを行った。

(川)

・町の公式Instagramを中心に、SNSの発信力を強化した。【デジタル】

・結崎駅前のシェアキッチンやスケート等を楽しめる「オーバルパークかわにし」の整備を進め、誘客力を高めた。【連携】

(田)

・周辺市町村(奈良市・明日香村・吉野町)と共同で、女性をターゲットとした巫女体験などを交えたNARADプレミアムツアーを企画した。

取組みによる効果

(天)(川)(三)(田)

・各自治体の広報紙や公式SNS、大和まほろば広域定住自立圏の公式Instagramでの情報発信等を強化したことで、各イベントや観光事業の集客につながり交流人口が増加した。それに伴い、ボランティアガイドの案内件数も大幅に増加した。

R7以降の予定について

(天)(川)(三)(田)

・各市町のこれまでの取組みを継続・強化する。

・シェアサイクルを天理市に導入し、圏域内の観光エリアへのアクセス・回遊性向上を図る。【連携】

・SNSにてシェアサイクルと観光を関連づけた情報発信を行う。【連携】【デジタル】

・大阪・関西万博での奈良県催事にて、来場者に対し各市町の観光地・特産品などのPR活動を行う。

(天)

・多言語対応の観光音声ガイドの導入に向けた取組みを行う。【デジタル】

指標 (KPI)					
ボランティアガイドの案内実績 (人)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	544	699	7,768	8,780	13,606

事業写真



川西町役場のシェアサイクルポート



田原本町での巫女体験などを交えた観光ツアー



三宅町・田原本町等の飛鳥ナンバーデザイン
トラックでのPR活動

I-(3)-③

事業名：鳥獣被害防止対策事業

事業内容

有害鳥獣による農林業被害を防止するため、山間地及び中山間地のみならず市街地にまで及びつつある鳥獣被害について、関係市村と関係団体が相互に情報共有を進めるとともに、関係市村が連携して防止対策を行う。
・有害鳥獣対策の意見交換、情報共有及び研修会を実施する。

R6の取組み

- (天)(山)
・鳥獣対策や捕獲後の処理方法、被害についての情報共有や意見交換を行った。【連携】
- (天)
・鳥獣被害防止計画に定める対象鳥獣の捕獲、侵入防止のメッシュ柵の設置等について、猟友会との会議を定期的に開催し情報共有を行った。
・猟友会、新規の狩猟免許取得者に対し、狩猟免許試験の受験料を全額補助した。
- (山)
・国の補助事業を通じて8地区に11kmの侵入防止柵を設置した。
・新規の狩猟免許取得者に対し、取得時の講習会費用を全額補助した。
・村独自の補助金制度である、捕獲頭数に応じた報奨金制度を活用した。

取組みによる効果

- (山)
・村独自の補助金制度として、捕獲頭数に応じた報奨金制度を設けており捕獲頭数の増加につながった。

R7以降の予定について

- (天)(山)
・今後も、効率的な捕獲方法、侵入防止柵の設置、その他の鳥獣被害防止に向けた適切な対策の実施にあたり、天理市と山添村で共通する行政課題の解決に向けた意見交換を行う。【連携】
- (天)
・鳥獣対策のための消耗品(罠やカメラなど)の購入や、後継者育成のための予算を確保し、国の補助金の活用を検討する。
・猟友会の後継者育成のため、経験豊富な会員から若手会員へ技術指導を行う講習会の開催を予定している。
- (山)
・捕獲頭数の増加に伴い国からの補助金増額を見込んでおり、アライグマ対策の予算の増額も検討する。

〇指標 (KPI)

	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
有害鳥獣捕獲数(頭)	1,196	1,021	1,391	1,432	1,538

事業写真



侵入防止のメッシュ柵を設置（山添村）

1-(3)-④

事業名：中心市街地にぎわい創出事業

事業内容

関係市町のそれぞれの中心市街地において、様々な都市機能の強化やアクセスの改善を図るとともに、空き店舗等を活用した取組やまちの魅力を発信するイベント等のソフト事業を展開することにより、中心市街地のにぎわいと活力を創出し、圏域内外から絶えず人々が訪れるまちづくりを推進する。

R6の取組み

(天)(川)(三)(田)

- ・圏域のイベント情報を積極的に共有、またチラシの配置等による情報発信を行った。【連携】
- ・各市町内の施設にチラシを配置し、利用者に対して他市町の施設の紹介を行った。【連携】

(天)

- ・産・官・学連携プロジェクトとして、天理大学・モンベル共同事業体とともに、農業人材や観光人材を育成するプロジェクトを行った。観光物産センター「天理大学 i CONNECT Shop」や「南団体待合所の観光案内コーナー」など天理駅前の拠点施設を活用し、学生が店頭に立ち特産品についてそれぞれの魅力紹介・販売に加えて、観光案内の実践を行った。

(川)

- ・スーパーおくやま結崎店1階のおくやまテラス(シェアスペース・シェアキッチン・アウトドアスペース)の活用促進に向けた情報発信の強化等を行った。【デジタル】

(三)

- ・交流まちづくりセンターMiiMoを起点とした関係人口創出に向け、戦略の検討や情報発信の強化等を行った。【デジタル】

(田)

- ・田原本駅周辺の再開発事業が完了し、80戸の住居及び立体駐車場に加えて、1階に商業施設、2階に公共施設(子育て支援施設・地域FM局)が入居し、田原本駅前の顔となる複合ビルの運営がスタートした。

取組みによる効果

(天)(川)(三)(田)

- ・各拠点施設を活用したイベント開催数・参加者数の大幅な増加につながった。
- ・各中心市街地でのイベント等において、他市町の団体の出店や住民の参加等が進んだ。【連携】

R7以降の予定について

(天)(川)(三)(田)

- ・中心市街地の活性化に向け、広報強化やイベント誘致を行う。また、大和まほろば広域定住自立圏の公式Instagramを活用し、圏域の魅力やイベント情報を積極的に発信する。【連携】【デジタル】
- ・現在、磯城郡3町で実施しているシェアサイクルを天理市に導入し、各中心市街地へのアクセス向上や中心市街地間での回遊性向上を図る。【連携】

指標 (KPI)					
中心市街地におけるイベント等の開催件数 (件)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	346	448	539	556	834

事業写真



天理大学サテライトキャンパス



田原本駅前再開発事業で建設された複合施設

1-(4)-①

事業名：一般廃棄物広域処理事業

事業内容

一般廃棄物の広域処理の推進により、廃棄物の安定的かつ効率的な処理を維持・確保するとともに、広域処理をより円滑に実施するため、圏域内で異なる廃棄物の分別について統一に向けた検討を行う。また、より持続可能なごみ処理体制の構築に向けて取り組む。

R6の取組み

(天)(山)(川)(三)

・新ごみ処理施設等「やまとecoクリーンセンター・リサイクルセンター」(以下、新施設)の稼働に向け、関係市町村でごみの分別方法やごみ持込予約システムの運用について最終調整を行った。また、新施設稼働に伴うごみの持込方法等の変更点について、手引きの改編、チラシ作成及び広報紙への情報掲載を行うことで、住民へ周知した。【連携】【デジタル】【SDGs】

(天)

・バイオマス発電に利用される木質チップを加工する企業への草、木、枝などの販売、雑紙保管袋を活用した分別の促進など、リサイクルの推進に取り組んだ。また、一般廃棄物収集運搬許可業者への展開検査を実施し、持込ごみの適正化に努めた。【SDGs】

(山)

・新施設の稼働に伴い、例年発行している「家庭ごみの分別・出し方ポスター(外国人向け英訳あり)」に加え、新しく「ごみ分別ガイドブック」を作成・配布し、適正な分別を促進した。また、カン・ビン・ペットボトルは、これまでリサイクル回収品目として各大字ごとに集団回収していたが、令和7年4月からは新施設に対応する形で資源ごみとして行政収集に変更した。【SDGs】

(川)

・「ごみの分別方法」や「ごみ持込予約システム」などの変更点について、住民周知を行った。また、ごみの減量化・資源の再利用の促進を図るため、資源回収団体(各家庭から出る資源ごみを自主的に回収する団体)へ助成金を交付しているが、令和6年度は助成金額の単価を上げることで、資源回収団体の取組みの更なる促進を図った。【SDGs】

(三)

・令和7年3月31日付で町指定のリサイクル袋の販売を廃止し、令和7年4月1日より市販の透明・半透明の袋で資源ごみとして出すよう変更し、住民の負担軽減、資源ごみの回収促進を図った。【SDGs】

取組みによる効果

(天)(山)(川)(三)

・新施設稼働に向け、ごみ収集の基準を統一し、変更点について各市町村より事前に住民に周知を行ったことで、稼働後のスムーズなごみ収集や持込みが実現している。【連携】

・ごみの持込みをオンラインや電話での事前予約制にしたことにより、利用者の利便性が向上し、施設周辺の混雑が回避できた。【デジタル】

R7以降の予定について

(天)(山)(川)(三)

・新施設の適正な運営のため、市町村で問題点を共有し、課題解決のため連携し取り組んでいく。【連携】

・地域の各種団体(学校、老人会及びサロン等)向けに新施設の見学会・体験プログラム・イベント等を実施し、多世代の人が集う環境・健康についての学びの場や賑わいを創出する。【連携】【SDGs】

・新施設の公式Instagramを開設し、新施設の情報やイベントの案内を積極的に発信し、圏域住民への周知や利用向上につなげる。【デジタル】

(天)

・新施設での天理大学と連携したイベント開催を検討する。

(三)

・適正なごみの分別、リサイクルを推進するため、講演会を開催する。

指標 (KPI)					
(上段) ごみ処理施設での年間のごみ焼却量(t)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
(下段) ごみ処理施設からの年間のリサイクル資源搬 出数(t)	24,516	24,167	20,576	21,931	21,918
	2,774	2,336	2,702	2,551	2,679

事業写真



やまとecoクリーンセンター



やまとecoリサイクルセンター

I-(5)-①

事業名:災害時相互応援体制整備事業

事業内容					
災害発生時において、圏域住民の安全を最優先に考えた災害対応を迅速かつ的確に実施するため、災害時に必要な情報の共有を図るとともに職員の相互派遣や備蓄品、資機材、避難施設の相互利用が可能となる諸準備や連携事業の検討を進め、圏域全体で相互応援体制を構築する。					
R6の取組み					
(天)(山)(川)(三)(田) ・備蓄品・感染症対策に考慮した避難所運営等の情報共有と連携強化を図った。【連携】 (山)(川) ・防災支援会社である「(株)ミューチュアル・エイド・セオリー」と協定を締結し、大規模災害発生時の初動72時間を支援する「ガーディアン72※」プロジェクトに参加した。【連携】 ※被災者が3日間(72時間)を生き抜くための水、食料、衣料、衛生用品などが1つの段ボールにパッケージ化された、1人1箱で仕分けが不要の災害備蓄品「G72ボックス」を全国の自治体などへ配布。					
取組みによる効果					
(天)(山)(川)(三)(田) ・災害時の連携体制の整備や密な情報共有により、防災力を向上することができた。【連携】					
R7以降の予定について					
(天)(山)(川)(三)(田) ・想定外の大規模な自然災害に備えるため、防災連絡会議を通じて圏域間の連携を深め、情報共有、相互利用等の相互協力体制を引き続き強化することで、防災力の向上を図る。 ・令和7年8月に開催する田原本町の防災イベントにて、警察・消防・自衛隊に協力を要請し、体験型イベントや防災に関する展示を行う。 (三)(田) ・令和7年10月25日・26日に「令和7年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練」を実施する。 (天) ・ハザードマップの更新や、市内各地域ごとで防災訓練を実施する。					
指標(KPI)					
相互連携事業実施回数(回)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)
	5	3	5	3	2

1-(6)-①

事業名:消費生活相談事業

事業内容

複雑・多様化する消費生活相談に対応するため、関係市村は連携して、消費生活相談事業の実施並びに消費者への啓発及び情報提供を行い、消費生活相談体制の強化を図る。また、圏域内における消費生活相談事業の広域化など効果的な実施の方策を検討する。

R6の取組み

(天)(山)

・天理市消費生活センターにおいて、山添村の住民の相談も実施した。【連携】

(天)

・令和6年10月に消費者安全確保地域協議会(見守りネットワーク)を発足し、高齢者、障害者、認知症等により判断力が十分でない人などの消費者被害を防ぐため、天理市及び地域の関係機関※が連携し、各団体での見守り活動を実施した。また、見守り活動の中で発見した消費者被害を、消費生活センターへつなぐ仕組みを構築した。

※警察、金融機関、奈良ヤクルト販売㈱、奈良弁護士会、地域包括支援センター

・消費生活相談員のスキルアップを図るため、国民生活センター主催の様々な研修に参加した。また、消費者被害の未然防止を広く住民に周知するために、広報紙やLINE、ホームページを通じて被害情報・相談事例の発信を行った。【デジタル】

(山)

・詐欺等への注意喚起チラシや、消費者相談の冊子を山添村役場住民ホールへ配置した。

取組みによる効果

(天)

・見守りネットワークによる見守り活動の実施及び相談員の能力向上により、相談体制を強化した結果、潜在的被害者の相談につながり、消費生活センター相談件数は年々増加している。

R7以降の予定について

(天)(山)

・天理市で発足した消費者安全確保地域協議会(見守りネットワーク)に、山添村も参加し連携することを検討する。【連携】

・消費生活に係る相談事例を隔月で天理市の広報紙に掲載している。相談事例の複雑・多様化に伴い、さらなる啓発・注意喚起のため毎月の掲載を検討する。

・天理市が広報紙で発信している被害情報・相談事例を山添村へ共有し、「山添つながりアプリめえめえ」での情報発信を行う。【連携】【デジタル】

・天理市役所と山添村役場をオンラインでつなぎ、山添村の住民が天理市役所に来庁せずに相談できる環境を整備していく。【デジタル】

・消費生活センターの認知度を高めるため、チラシ・パンフレットを作成し周知していく。

指標 (KPI)					
天理市消費生活センター相談件数(件)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	390	376	412	431	460

事業写真



天理市消費生活センターでの相談



山添つながりアプリめえめえ

1-(6)-②

事業名：公共施設マネジメント事業

事業内容					
相互利用対象施設を含む公共施設の老朽化問題に適切に対応するため、関係各市町村で公共施設等総合管理計画をはじめとする各種計画に基づく公共施設マネジメントを推進する。その上で、圏域住民が公共施設に求める機能を圏域全体で確保することを目指した「大和まほろば広域定住自立圏公共施設マネジメント基本方針」を定める他、各種公共施設マネジメントに関する取組を促進する。特に、関係市町村の公共施設の利用要件や利用料金等の利用に関する条件を緩和することで圏域内における圏域住民による施設の共同利用を積極的に促進する。					
R6の取組み					
(天)(山)(川)(三)(田) ・各市町村の公共施設等総合管理計画を踏まえ、課題等を共有し、公共施設の共同利用の拡充や共同管理の導入といった広域連携を見据えた「大和まほろば広域定住自立圏公共施設マネジメント基本方針（以下、基本方針という）」を策定した。【連携】 ・地方自治体における取組事例の紹介を通じ、定住自立圏構想に関する理解を深めるため、総務省により例年開催されている「定住自立圏構想推進セミナー」が、令和6年12月19日にオンラインにて開催された。今回のセミナーでは、大和まほろば広域定住自立圏による「公共施設の共同利用に向けた取組みの状況」について、三宅町より圏域での協議会立ち上げの経緯や、今後の共同利用に向けた検討状況等を発表した。【連携】					
取組みによる効果					
・基本方針の策定により、圏域の市町村に対して公共施設マネジメントに関する広域連携の方向性を示し、個別の公共施設等総合管理計画に反映することができるようになった。					
R7以降の予定について					
(天)(山)(川)(三)(田) ・基本方針や各市町村の公共施設等総合管理計画を踏まえ、公共施設マネジメント事業担当者会議を開催し、課題等を共有するとともに、広域連携を推進する取組みについて、具体的に協議する。【連携】 ・基本方針の内容を、各市町村の公共施設等総合管理計画へ積極的に反映し、公共施設の老朽化問題等に適切に対応するための取組みを推進する。【連携】					
指標 (KPI)					
(仮称) 圏域公共施設マネジメント基本方針の策定 (%)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	策定中	策定中	策定中	策定中	100

1-(6)-③

事業名：公共施設相互利用促進事業

事業内容

関係市町村の文化・スポーツ施設をはじめとする公共施設の利用料金について、それぞれの施設を設置している市町村の住民以外の方が利用される際に、これまで設けていた割増料金を緩和し圏域住民が同じ料金で利用できるよう取組を推進する。

◆相互利用の対象とする施設

(天) (10施設)

①奈良県天理健民運動場②天理市白川ダム運動場③天理市二階堂運動場④天理市福住運動場⑤天理市天理ダム運動場⑥天理市立二階堂体育館⑦天理市立三島体育館⑧天理市立総合体育館⑨天理市立庭球場⑩天理市グラウンド・ゴルフ場

(山) (4施設)

①山添村総合スポーツセンター(グラウンド、体育館)②奈良県山添健民運動場③山添村農村広場(テニスコート、広場)④山添第1体育館

(川) (6施設)

①川西町梅戸体育館②川西町結崎庭球場(軟式テニスコート)③川西町中央体育館④結崎運動公園(硬式テニスコート)⑤川西町下永体育館⑥唐院運動公園(小運動場、屋内運動場)

(三) (4施設)

①三宅町体育館②奈良県三宅健民運動場③三宅町中央公園及び運動施設④交流まちづくりセンターMiiMo

(田) (5施設)

①田原本町中央体育館(体育館、庭球場、スケートボードパーク)②田原本町やすらぎ体育館③奈良県田原本健民運動場④道の駅レスティ唐古・鍵(多目的室)⑤しきのみちはせがわ展望公園(えのき広場のグランドゴルフ場)

R6の取組み

(川)

・川西町の公式InstagramなどのSNSを積極的に活用し、圏域住民の利用者数増加を促進した。【連携】
【デジタル】

・体育館や運動場について、川西町以外の圏域住民が利用する際に、川西町民と同じ料金で利用できるよう料金を設定した。【連携】

(三)

・交流まちづくりセンターMiiMoを、圏域内の団体が主催するマルシェ等の開催に積極的に活用した。

取組みによる効果

(天) (山) (川) (三) (田)

・圏域内の公共施設において、圏域住民が当該施設を設置している市町村の住民と同額の利用料金で利用できることにより、圏域全体で公共施設の利用者が増加した。【連携】

R7以降の予定について

(天) (山) (川) (三) (田)

今後も、圏域の施設で開催されるイベントの情報について、大和まほろば広域定住自立圏の公式Instagramなどを活用し、圏域住民に積極的に周知することで公共施設の相互利用促進を図り、施設利用者数の増加につなげる。【連携】

指標(KPI)

相互利用対象施設利用者数(人)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	8,536	19,780	18,069	13,814	9,021

2-(1)-①

事業名:地産地消等推進事業

事業内容

てんだいフェスタなど圏域内のイベントや観光物産施設・直売所を活用して、圏域内の特産品等を直売することにより、販路拡大を図るとともに、消費者と農業者などの交流促進に取り組む。また、圏域一体での特産品等のPRの推進を図る。

R6の取組み

(天)

・天理駅前広場コフフンにおいて、地産地消のイベント「てんだいフェスタ」を「天理大学・モンベル共同体」へ委託し年間10回開催した。イベント内ではカキ、イチゴ、ホウレン草などの農産品の出品を行った。【連携】
・なら歴史芸術文化村内の農産物直売所にて、天理市産の農産物を販売した。

(山)

・村内のイベントで有機農業により栽培したお茶、レンコンの2品目を出品した。【SDGs】
・山添村地域交流拠点「Soyel」内の花・農産物直売所「花香房」にて、新米キャンペーンを実施した。

(三)

・三宅町交流まちづくりセンターMiiMoに設置した焙煎機を使い、金ゴマをいりごまとして商品化し販売した。

(田)

・毎年10月に田原本駅前広場で開催される「十六市」において、農家代表者会が農産物3品目を販売し、地元農産物のPRを行った。
・道の駅「レスティ唐古・鍵」で町産農産物を販売し、特産品のパンフレットを配置するなど、安全で安心な地元農産物と特産品のPRを行った。

取組みによる効果

・地元農産物や特産品を、地域のイベントや直売所を活用して販売し、積極的にPRをすることで販路拡大につながった。

R7以降の予定について

(天)(山)(川)(三)(田)

・情報ツール(ロゴチャット)の整備を実施することで、圏域内での販路拡大や、消費者と生産者の交流促進につながる情報共有など、更なる取組みを推進する。【連携】【デジタル】
・圏域内の各種イベントにて圏域内の特産品のPRを積極的に推進する。【連携】

(天)

・天理駅前広場コフフンにおいて「てんだいフェスタ」を年間10回開催し、圏域からの出店募集を行い、圏域内の特産品等の販売・PRを行う。特に、農産物ブースについては出店者の拡大と出品内容の充実を図ることでPRの強化に努める。【連携】
・なら歴史芸術文化村内の直売所でのニーズの把握に努め、ニーズに即した農産物・農産加工品の情報提供及び生産者との引き合わせを実施する。【連携】

(山)

・村内外で米や野菜の販売イベント及び直売所での有機野菜の売り場設置を検討している。また、有機野菜の販路拡大のため大阪の商談会へ参加する。【SDGs】

(三)

・環境負荷低減農業として、米を中心に農薬や化学肥料の使用を抑えた農業を推進していく。【SDGs】

(田)

・地域での地産地消のため、「十六市」などのイベントに参加し地元農産物の販売を実施する。

指標 (KPI)					
圏域のイベントに出品した特産品等の品目数 (品)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	—	—	—	—	13

事業写真



てんだいフェスタ（天理市）



新米キャンペーン（山添村）

3-(1)-①

事業名：圏域職員等合同研修・人事交流推進事業

事業内容

・天理市が実施する各種研修等において、関係町村の職員等にとっても共通する課題など、必要性の高い有益なものについては、合同研修として関係町村職員等の参加機会を確保する。また、必要に応じて関係町村との共同企画による合同研修会の開催についても検討する。

・関係市町村の求めに応じて、特に希望する分野や連携促進に有効と思われる分野について、情報・意見交換会や勉強会などによる人事交流を実施する。

R6の取組み

(天)(山)(川)(三)(田)

・9月に、サイバーセキュリティに対する意識向上のため、天理市主催でセキュリティ研修を合同で行い、山添村・川西町・三宅町から各2名の職員が参加した。10月には新規採用職員研修・手話研修・救命研修を行い、田原本町より3名、三宅町より1名参加した。【連携】

取組みによる効果

(天)(山)(川)(三)(田)

・講師の確保が困難であるなどの理由から、各町村単独では開催できない研修に参加することができ、担当職員の知識や資質の向上につながった。

・定住自立圏連携事業担当者会議を開催し、各分野での情報・意見の交換を行うことで、課題の共有や相互理解を深めることができた。

R7以降の予定について

(天)(山)(川)(三)(田)

・合同研修を積極的に開催する。利便性を考え、オンラインでの開催も検討し、小規模で効率的な研修等に対応する。【連携】【デジタル】

・定住自立圏連携事業担当者会議を複数回開催し、情報共有や意見交換、勉強会など人事交流に取り組む。【連携】

・事務職に限らず、専門職員の人事交流についても検討する。【連携】

(天)(三)(田)

・合同でハラスメント研修を開催予定。【連携】

(天)

・令和7年度も10月頃に新規採用職員研修を圏域合同で行う予定。新規採用職員以外の合同研修の開催について検討する。【連携】

指標 (KPI)

合同研修会等の実施件数(件)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
	3	1	0	1	2

3-(2)-①

事業名:外部人材活用事業

事業内容

圏域の魅力ある地域づくりに向けて、圏域マネジメント能力を高めていくため、各協定分野の取組み等に関し、高度で専門的な知識等を有する専門家を圏域外から招へいし、その活用を図る。

R6の取組み

(山)(川)(三)

・デジタルを活用した庁内の業務処理を円滑に進めるため、文書管理・書類整理の専門家を招へいし、職員がスキルを向上させるための研修や実践を行った。【連携】【デジタル】

(天)

・令和5年度から引き続き、地域活性化起業人制度を活用し、NTT西日本(株)よりICT推進専門官を1名任用した。令和9年1月に実施を予定している「フロンヤード改革※」に向けて窓口DXワーキンググループの中心となり、議論・検討を進めた。【連携】【デジタル】

※自治体と住民の接点(フロンヤード)を改善し、住民の利便性向上と行政の業務効率化を同時に実現しようとする取組み(総合案内設置、申請書の統一、各課手続きに関する業務フローの見直し、書かないワンストップ窓口導入検討など)。

(山)

・地域情報化アドバイザー制度を活用し、システムの標準化や内部情報システムの導入準備など、情報システム及び情報セキュリティの分野において、職員のスキルアップのための事業を実施した。また、ウェブマーケティングデザイナーを広報アドバイザーとして委嘱し、ホームページや情報発信の今後の方向性について検討した。【デジタル】

(川)

・町の新たなロゴマーク作成に当たって、ブランディング、デザイン等を行う「パンダ合同会社」の人材を活用した。【連携】

(三)

・地方創生人材支援制度を活用し、政策アドバイザーを1名任用。交付金等の活用に当たっての助言を仰いだ。【連携】

取組みによる効果

(天)(山)(川)(三)(田)

・職員の業務改善への意識の向上、デジタル部門に関するスキルアップに繋がった。

・外部人材の活用により、専門的技能が必要となる地域課題への対応が可能となった。【連携】

R7以降の予定について

(天)(山)(川)(三)(田)

・圏域内で任用・活用している外部人材のリストを作成し、リストに掲載した人材を活用した合同研修等の開催について検討する。【連携】

(天)

・地域活性化起業人制度を活用し、令和5年度から引き続き、NTT西日本(株)よりICT推進専門官を1名任用する。令和6年度に窓口DXワーキンググループで議論した内容を総括し、「すべての人にやさしいデジタル窓口」の実現を目指す。窓口業務のフロー見直しやデジタル化を行い、「書かないワンストップ窓口」を推進する。【連携】【デジタル】

(山)

・事務の効率化を実現するため、令和8年度からのデジタルを活用した文書管理システムの本格導入に向けて、地域情報化アドバイザーを活用し、事業を進める。【連携】【デジタル】

・令和9年度にホームページの全面リニューアルを行うため、引き続き広報アドバイザーを活用し、事業を進める。【連携】【デジタル】

・少子高齢化が進行する中、高齢者を中心に「住民がくらしを支え合える仕組み」をつくるためのプロジェクト(共生プロジェクト)を展開するため、地域活性化起業人制度を活用し、民間企業から人材を受け入れ、課題解決を図る。【連携】【SDGs】

(川)

・地域活性化企業人制度を活用し、専門的なノウハウや知見を持つ人材を2名任用し、保田地区遊水地の上面を活用したインラインスケート場の管理運営を行い地域活性化を図る。【連携】

(三)

・地域活性化起業人制度を活用し、デジタルに特化した人材を2名任用し、住民サービスのデジタル化などDXの推進、DXリーダーを養成するなど人材育成を図る。【連携】【デジタル】

指標(KPI)

	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)
外部人材招へい数(人)	1	1	0	1	6

事業写真



地域情報化アドバイザー(総務省)と山添村職員によるICT化についての意見交換会



(株) オフィスミカサを講師とした文書管理アカデミーの様子(山添村役場)